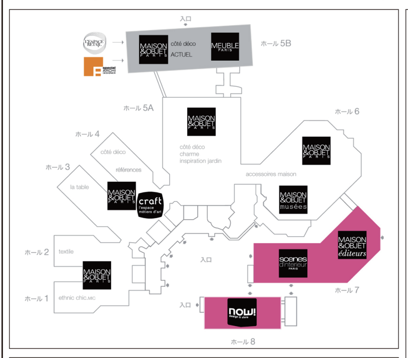
■　２０１２　MAISON & OBJET・REPORT　　2012.2.22 Report　大場　1 / 9

■ 開催期間：2012.1.20（金）- 24（火）／５日間
■ 開催場所：パリノール・ヴィルパント見本市会場
■ 主催：SAFI（仏アトリエダール組合とリード・エキジビジョンの共同出資による運営機関）



■ 見本市の概要■

・会場面積 : 130,000 ㎡以上
・来場者数 : 85,766 名（137 カ国より）
　外国人来場者
　　フランス国以外　46.3%
　国外来場者傾向
　　ロシア前年比＋24.8%
　　アメリカ前年比＋15.8%
　　アフリカ前年比＋29%
・日本人来場者数 : 1800 名以上　前年比＋0.7%
・出展企業数 : 3,000 社　日本の出展者　76 社

■ POINT　・２０１２年度のクリエーター：FERNANDO & HUMBERTO CAMPANA（2012 クリエーター）
：HUBERT LE GALL（インテリア・シーン）
：TOKUJIN YOSHIOKA（インテリア・ナウ）

・パリ市内で Deco Off は、昨年に引き続き開催。

・PARIS DE CHEFS（パリ・デ・シェフ）開催　1/22〜24　今回初めて展示会場から飛び出しパリ市内でイベントを開催。3 日間で 9000 名が来場。

www.parisdeschefs.com　Maison de la Mutualité（メゾン・ド・ラ・ミュチュアリテ）ーパリ５区

■　２０１２　MAISON & OBJET・傾向その１・COLOR　　2012.2.22 Report　大場　6 / 9

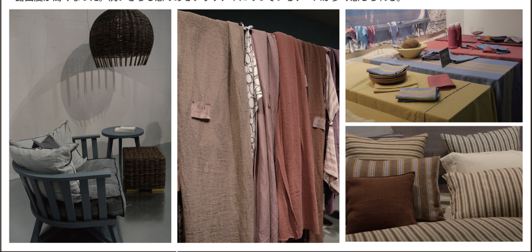
■昨年に続き、ブルーの露出度が高い。ブルー〜インディゴブルー〜ターコイズブルーと、様々なブルーを見ることが出来た。その他としては、力を感じるカラーが多くなってきている。モノトーンとチャコールプラス、少し色褪せた雰囲気のアッシュカラー・ベリーカラーなどがあげられる。どのカラーも自然を意識したイメージに仕上げている様に感じる。

爽やかなブルー〜ターコイズブルーのバリエーション

昨年に続きブルーの、バリエーションの広がりが多い。昨年よりも爽やかで軽快なイメージのブルーが多く、純粋に綺麗なカラーで構成されている。

ニュアンスのあるアッシュカラー

グレーかかった色が、ボリュームとして見えてきている。今までも多少はあったカラーリングだが、今回は増加した様で露出度が高くなった。洗いざらし感のあるクオリティにのっているケースが多く感じられる。



継続のモノトーン

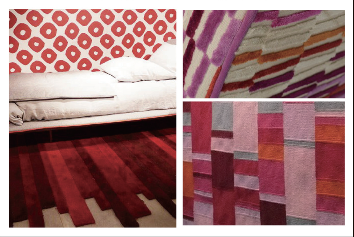
昨年に引き続きモノトーンが多い。昨年との違いは、多少グレー味が強くなり、チャコールグレーのイメージが強い色が多くなって来ている。ハッキリしているよりも、ニュアンスのあるグレーが今年の雰囲気。

チャコールプラス

チャコールグレーにブライトカラーを、組み合わせるコンビネーションが新しい。カラーを積極的に使用し、綺麗に見せている。アンティーク風な壁材のチャコールグレーとカラフルな家具との組み合わせは、特に新鮮に感じる。

ベリーカラー

レッド〜ピンクをメインに柑橘系のカラーをプラスした色合いが、昨年に引き続き多く見受けられる。昨年との違いは、パープルやバイオレット系が、コンビネーションカラーとして使われているケースが減っている。



■　２０１２　MAISON & OBJET・傾向その２・QUALITY　　2012.2.22 Report　大場　7 / 9

■今回の M&O のテキスタイルでは、ウール＆獣毛とリネンが注目素材として上げられる。手法では、キルトや刺し子の様に凹凸があり膨らみのある物がとても多くなった様に思う。全体的に優しいイメージのする物に注目が集まっている様に感じる。

ウール＆獣毛素材

アイテムとしては、日本同様、ひざ掛けやケット類の展示が増えて来ている。素材は、ウールや獣毛が多く織り素材とニット素材が大半かと思う。その他フエルトにも注目したい。

リネン素材

様々なブランドでリネン素材を、見る事が出来る。少し洗いざらし感のあり仕上げが、主流となっている。

キルト・刺し子などの柔らかい凹凸感

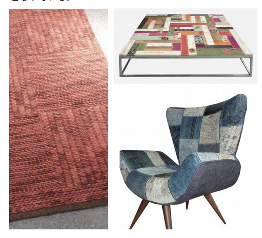
優しい膨らみのある、キルトや刺し子などの凹凸感のある手法が多くなった。壁面で多く提案されている所が、今年らしい部分だと思う。

ユーズド感

経年変化を感じさせる、錆の表現や剥げた表現が新鮮。ファブリック以外のアイテムで多く見る事が出来る。

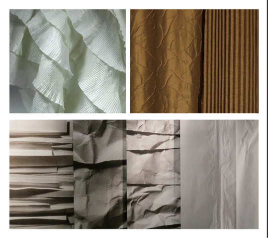
パッチワークのバリエーション

数年前より出てきている、パッチワークラグがすっかり定着したようだ。アンティーク風なパッチワークが、近年の傾向となっている。



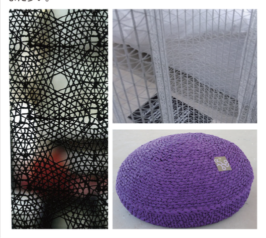
プリーツ＆シワ加工

細かいプリーツやシワ加工が、今年は多かった。繊細さが伴った物が多い様に感じる。



ニット

マシーンニットの粗ゲージタイプが、ディスプレイに使われるケースが見受けられた。昨年までのざっくり手編みもまだまだ多い。



手作り感

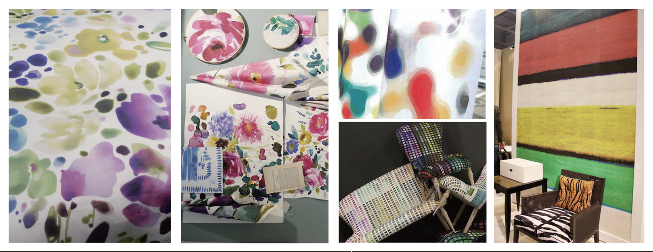
３年程前より注目の手作り感のあるタイプは、今年も健在。手作りのぬくもりを伝える事が出来るテクニックは、空間演出に於いて、これからも重要なポイントになると思う。

■　２０１２　MAISON & OBJET・傾向その３・PATTERN　　2012.2.22 Report　大場　8 / 9

■2010 年頃から多くなって来た水彩タッチは、デジタルプリント表現での表現が定番化している。また、昨年より増えているジオメトリックパターンには、和の雰囲気を感じる物が圧倒的に増えて来ている。この傾向は同様に、イカット & タイダイ表現にも、顕著に表れている。今年の新しい傾向は、ラインをアクセントに使ったパターン。もう一つの傾向としては、昨年登場したパターンに、積極的にカラーが持ち込まれている点だと思う。

デジタルプリント

水彩の花柄が多く見られる。デジタルプリントによって植物が生き生きと表現されている。また、カラーパレットパターンが、デザイン要素として取り入れられているケースが増えている。



和風幾何パターン＆イカット・タイダイ

昨年のジオメトリックパターンに、和のテーストが加わり広がりを見せている。モダンからポップなものまで、テースト感も巾広い。絞り・絣のパターン表現は継続。

ライン使いのバリエーション

ライン使いをアクセントに表現されたパターンが増えている。水彩＋ラインでの表現と、ラインのみの表現の２通りが多い。モチーフとして建築物が多くなって来ているのも特徴。

トリックパターン

椅子・扉・カトラリーなどが、トリックパターンとしてプリントされているアイテムが、増殖中。遊び心があるこなし方が多く、インテリアを楽しく演出。

スタンプタッチ

ハンコでスタンプした様なタッチが新鮮。今年はカラフルなタッチも登場し、広がりを見せている。